

(別表 5)

I. 授業の概要

教科	芸術Ⅱ	科目	音楽	単位数	2	年次	2
使用教科書	高校生の音楽 2 (出版社名 教育芸術社)						
副教材等							

1. 学習の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2. 3 観点の評価規準

規 準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知識】 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて深く理解し、適切に説明できる。 【技能】 創意工夫などを活かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージを明確にもってどのように個性豊かに表現するかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを深く味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
上記の規準に対して、「十分満足できる」場合は A、「おおむね満足できる」場合は B、「努力を要する」場合は C として評価する		
評 価 方 法		
ワークシート、実技テスト、創作作品、定期テスト 等	ワークシート、実技テスト、創作作品、定期テスト 等	振り返りシート、プレゼンテーションや主体的な取り組み 等

3. 学習内容

1 学期	【表現】 ヴァイオリン、歌唱、創作(BGM) 【鑑賞】 オーケストラの楽器 【共通】 1 年生の復習
2 学期	【表現】 歌唱、三線、創作 【鑑賞】 物語を題材にした楽曲 【共通】 1 学期の復習
3 学期	【表現】 ポピュラー音楽、歌唱、創作 等 【鑑賞】 モーツァルトについて 【共通】 年間のまとめ

4. 学習方法

【進め方】 基本的な表現活動（歌唱・器楽・創作）と鑑賞活動を並行して進める 【授業で理解しておいてほしいこと】 ①音楽の授業では、一人ひとりの興味・関心・意欲がとても大切。積極的に知覚・感受してほしい。 ②「自分たちで考えて学ぶ」という場面が多くある。1 年の時に学んだことを活かし、より積極的に「探求心」をもって自分の音楽的視野を広げてほしい。 ③発表が中心となるので、自己と正面から向き合う計画性が求められる。着実な準備をしてほしい。(提出物も同様です) 【題材ごとに以下を評価のもととする】 ・ワークシート、レポート、ノート等の提出(べ切厳守) ・独唱、アンサンブルなどの実技テスト(もともと出来る人が良い評価ではない。常に努力することが大切。) ・ペーパーテスト(1・3 学期は、授業内、2 学期は学期末テスト) ・その他学習態度等総合的評価(自己評価シートも含める)
--

教科の概要（芸術Ⅱ：音楽）

II. 目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

III. 観点別評価の規準と基準

規 準			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	十分満足できる		
	【知識】 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとその関わり及び音楽の多様性などについて深く理解し、適切に説明できる。 【技能】 創意工夫などを活かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。 【概ね達成率 80%以上】	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージを明確にもってどのように個性豊かに表現するかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを深く味わって聴いたりしている。 【概ね達成率 80%以上】	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【概ね達成率 80%以上】 ※ 主体的: 未知なることに自ら取り組む態度 ※ 自主的: 与えられたことに積極的に取り組む態度
B	おおむね満足できる		
	【知識】 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとその関わり及び音楽の多様性などについて深く理解している。 【技能】 音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。 【概ね達成率 35%以上】	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように個性豊かに表現するかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを深く味わって聴いたりしている。 【概ね達成率 35%以上】	自主的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【概ね達成率 35%以上】
C	努力を要する		
	【知識】 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとその関わりについて理解している。 【技能】 表現するために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、表現したり、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴いたりしている。	自主的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

(別表 5)

令和 5 年度シラバス

①教科名	芸術	②科目名	美術Ⅱ	③単位数	2	
⑤教科書	Art and You 創造の世界へ（日本文教出版）					
⑥副教材						

⑦学習上の留意点	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、意欲を伸ばし、美術文化についての理解を深める。	
⑧評価のポイント	1. 関心・意欲・態度	美術を愛好し、表現の主題や形式などに幅広く関心を持ち、意欲を持って表現を行う。
	2. 芸術的な感受や表現工夫	感性を働かせて美術のよさや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的な表現を行う。
	3. 創造的な表現の技能	幅広い表現をするために材料・用具を生かして表現する技能を身に付ける。
	4. 鑑賞の能力	作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、美しさや美しさを創造的に味わう。

月	⑨ 配当 時数	⑩単元・教材名	⑪学 習 項 目
4	4	(絵画・彫刻) クロッキー	オリエンテーション・美術Ⅱについて 物の全体的な形を掴む練習をし、動静を表現する。
5	19	(絵画・彫刻) 油絵	「16歳/17歳の私」をテーマとし、油絵の特徴、扱いや技法を学び、油絵で自己を自由に表現する。
6		(鑑賞) 鑑賞・講評	クラスメイトの作品を鑑賞しながら、作品の意図などの発表を聞き、質疑応答する。
7	1	(鑑賞) 鑑賞・講評	クラスメイトの作品を鑑賞しながら、作品の意図などの発表を聞き、質疑応答する。
8	8	(絵画・彫刻) 読書感想画	「西日本読書感想文・感想画コンクール」に出品する。コンクールに作品を制作、発表会に参加する。
	8	(絵画・彫刻) ペーパーウェイト	ポリエステル樹脂の特性を理解紙粘土し、で制作した物を中に封入することで立体的に自己を表現することを学ぶ。
	1	(鑑賞) 鑑賞・講評	クラスメイトの作品を鑑賞しながら、作品の意図などの発表を聞き、質疑応答する。
	2	(鑑賞) 美術館見学	沖縄県立博物館・美術館へ行き、コレクションギャラリーを鑑賞する。美術館の役割利用を学び、沖縄の美術家たちについて理解を深める。
	10	(工芸) シルバーリングの制作	「用の美」（使うことに忠実に作られたものに自ずと生ずる自然で暖かみのある美しさ） 芸のモノ作りの姿勢を理解し、表現する。）
	1	(鑑賞) 鑑賞・講評	クラスメイトの作品を鑑賞しながら、作品の意図などの発表を聞き、質疑応答する。
1	7	(デザイン) ポートフォリオ制作	自分の作品集を制作する。装丁の方法を学び、作品を大切にする姿勢を身に付ける。（装丁の工夫を学ぶ）

(別表 5)

2 3	7	(デザイン) ポートフォリオ制作	(製本作業を行う。)
	2	美術の授業のまとめ	ポートフォリオを鑑賞し美術の授業を振り返る。